

日本労働年鑑 第53集 1983年版
The Labour Year Book of Japan 1983

第二部 労働運動

XIII 政党

6 日本共産党

1 概況

創立六〇周年

一九八二年七月、日本共産党は創立六〇周年を迎えた。創立五〇周年の七二年総選挙で三八議席、第二党に進出したことが示すように、七〇年代前半までの共産党は各種選挙で躍進をつづけ、まさに政界の「台風の眼」であった。しかし、その後の一〇年間、共産党をとりまく状況はきびしさを増した。国際的には中国とベトナムの武力衝突、ソ連のアフガニスタンへの軍事介入、さらにはポーランドにおける軍事政権の成立など社会主義、共産主義のイメージをそこなう事態があいついでおこり、これらは共産党にとっても大きなマイナス材料となった。一方、国内でも、八〇年代の冒頭で、それまでは種々の矛盾・対立をはらみながらも地方首長選や平和運動、労働運動などさまざまな大衆運動で共産党との共闘を重ねていた社会党が、事実上「社公中軸路線」に転換したことは、国会内外のさまざまな分野で共産党の孤立化をもたらした。とくに、かつては「社共共闘」推進派が一定の勢力をもっていた労働組合運動の分野で「社公中軸」推進派が主導権をにぎり、左派組合排除を前提とする労働戦線統一運動に積極的にとりくんでいることは、労働運動における共産党支持勢力の孤立化をまねきかねない状況をもたらしている。

「四つの破たん」論

共産党は、こうした状況を「戦後第二の反動攻勢の時期」ととらえ、革新統一戦線結成促進のため、当面は政党としては単独でも、各界の統一戦線支持の個人、団体の自由な連絡組織としての「革新統一懇談会」を提唱し、八一年五月に結成した。また労働組合運動では、階級的ナショナルセンターの確立が急務であるとして、統一労組懇(統一戦線促進労働組合懇談会)の運動を重視し、これを支持している。情勢の特徴として、共産党が最近強調しているのは「四つの破たん」論で、(1)「核のカサ」論の破たん、(2)臨調路線の破たん、(3)労働戦線の右翼的再編の破たん、(4)社公合意の破たん、が明白になったことを主張している。一方、国際的には、これまでの自主独立路線をいっそう強くおしだして、ソ連のアフガニスタン介入をきびしく非難し、ポーランドの軍事政権にたいしても、「社会主義にあるまじき事態」ときびしい批判を加える一方、社会主義諸国を全面否定することに反対し、「社会主義はまだ生成の初期にある」と主張している。この一年間で注目されたのは、国際的な共産主義運動の雑誌『平和と社会主義の諸問題』が、ソ連共産党の覇権主義の宣伝機関になっているとして、改善を要求し、それがいれられなかったため、その廃刊を提唱したことであった。

党勢の推移

六〇年代以降の共産党の躍進をささえたのは、他党にさきがけて展開した、意識的な党勢拡大運

動の成果であった。しかし、七〇年代後半以降、党勢の伸びは鈍化し、とくに機関紙読者数では、大会ごとに新しい記録を更新してきたのが八〇年の一五回大会でストップし、八二年の一六回大会では、これを上回ることができなかった(第111表参照)。共産党は、八〇年二月の一五回大会以降の機関紙読者数の後退が欠配、未配達、未集金などに大きな原因があるとして、拡大と同時に、機関紙配達の実務体制の確立を強調した。

役員

八二年七月にひらかれた第一六回大会では一二年ぶりに大幅な人事異動があった。すなわち、九〇歳の野坂参三氏は引退して新たに設けられた名誉議長となり、新しい中央委員会議長には宮本委員長が常任幹部会委員のままで就任し、実権をもつ議長となった。新委員長には不破書記局長が、新書記局長には金子書記局次長がそれぞれ選任された。同大会は一八九人の中央委員、二二人の准中央委員を選出したが、中央委員のうち四四人は新任、うち一四人が女性であった。また准中央委員のうち一七人が新任、うち四人は女性であった。大会最終日の八二年七月三十一日にひらかれた一中総および幹部会で選出された役員はつぎのとおりである。なお、中央委員の氏名は『赤旗』八月一日号にある。

▽中央委員会議長 宮本顕治、▽幹部会委員長 不破哲三(本名・上田建二郎) ▽書記局長 金子満広 ▽幹部会副委員長 上田耕一郎、戎谷春松、瀬長亀次郎、西沢富夫、村上弘 ▽常任幹部会委員 緋田吉郎、市川正一、茨木良和、上田耕一郎、宇野三郎、戎谷春松、小笠原貞子、岡本博之、金子満広、小林栄三、榊利夫、諏訪茂、瀬長亀次郎、高原晋一、西沢富夫、浜武司、不破哲三、宮本顕治、宮本忠人、村上弘、吉岡吉典 ▽幹部会委員(常任幹部会委員は省略)阿部泰、荒堀広、上田均、大村進次郎、木島宏、木津力松、工藤晃、桑原信夫、小島優、小山袈裟雄、紺野純一、定免定雄、白石芳朗、立木洋、中島武敏、新原昭治、西井教雄、西沢舜一、葦沢忠雄、古堅実吉、松本善明、山下文男、山中郁子、若林暹。

日本労働年鑑 第53集 1983年版

発行 1982年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月4日公開開始

■←前のページ 日本労働年鑑 1983年版(第53集)【目次】次のページ→■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
